

第10回 全員協議会記録

1 日 時 令和3年6月22日(火) 午後12時58分 開会

2 場 所 議場

3 出席議員 18名

議 長	関 根 正 明	議 員	宮 澤 一 照
副 議 長	堀 川 義 徳	”	天 野 京 子
議 員	渡 部 道 宏	”	阿 部 幸 夫
”	宮 崎 淳 一	”	横 尾 祐 子
”	八 木 清 美	”	高 田 保 則
”	丸 山 政 男	”	小 嶋 正 彰
”	村 越 洋 一	”	太 田 紀 己 代
”	霜 鳥 榮 之	”	植 木 茂
”	佐 藤 栄 一	”	岩 崎 芳 昭

4 欠席議員 0名

5 欠 員 0名

6 説 明 員 6名

市 長	入 村 明	財 務 課 長	大 野 敏 宏
総 務 課 長	吉 越 哲 也	教 育 長	川 上 晃
企 画 政 策 課 長	葭 原 利 昌	こ ども 教 育 課 長	松 橋 守

7 事務局員 2名

局 長	築 田 和 志	主 査	道 下 啓 子
-----	---------	-----	---------

8 件 名

1 執行部側報告

1) 妙高市立小中学校整備構想について

○議長（関根正明） ただいまより、全員協議会を開会いたします。

1) 妙高市立小中学校整備構想について

○議長（関根正明） 1) 妙高市立小中学校整備構想についてを報告願います。こども教育課長。

○こども教育課長（松橋守） 妙高市立小中学校整備構想についてご説明申し上げます。資料につきましては、事前にお配りした妙高市立小中学校整備構想をごらんください。まず整備構想の策定に至った経緯ですけれども、前回の整備構想につきましては平成19年度に策定をしまして、その構想に基づいて適正配置を進め、直近では平成27年4月斐太南小学校と姫川原小学校が新井小学校に統合し、小学校8校、中学校3校、特別支援学校1校となって現

在に至っております。ただその後も少子化が進み、今後も児童生徒数の減少が見込まれることや、これからの学校の在り方について、急速に進展するICTの活用や、学校を核とした地域づくりの推進などを踏まえ、学校教育の充実を図るため、令和3年度から8年度までの5年間における整備構想を策定するものです。

2の今後の児童生徒数の推移ですけれども、(1)出生数の推移につきましては、近年の出生数は平成27年度の230人をピークに減少傾向となっております。それら出生数から令和4年度以降の在校生や入学者の人数を推計した表が(2)になります。こちらも出生数と比例しておりまして減少の見込みとなっております。本年度と令和8年度を比較した場合、中学校はほぼ横ばいですが、小学校では全体で214人減少と新井北小学校以外7小学校全てが減少と見込んでおります。ただしこの推計につきましては、出生数をベースに見込んだもので、転出入による移動は加味されておられませんので、今後出生以外の人口移動によっては、当然増減も出てくるものと思っております。

次に2ページをごらんください。3の現行の学級編成基準につきましては、1学級を編制する人数や複式学級の基準などについての説明となっております。

4の学校規模によるメリット・デメリットの例につきましては、小規模化、大規模化それぞれにつきまして学習面や生活面、学校運営面などのメリット・デメリットを説明したものでございます。いずれにつきましても、よい点と悪い点が当然ございます。

5のこれからの学校教育につきましては、昨年度急速に進んだGIGAスクール構想など、学校におけるICT化の推進による子どもたちを取り巻く学習環境の変化や、コミュニティースクールなどを活用した学校と地域との連携による地域力の向上など、今後の学校の在り方について説明をさせていただいております。

最後に4ページをごらんください。6の妙高市教育委員会が考える学校整備構想(令和3年度～令和8年度)学校整備構想の核となる部分でございます。これから令和8年度までの期間、この基本方針に基づいて進めていきたいというふうに考えております。まず(1)小中学校の適正規模基準につきましては、4の小規模校と大規模校のメリット・デメリット。それから後ほど資料もございますけれども複式学級につきましてのメリット、デメリットの考察、また公立小学校の35人学級編制のための義務教育標準法の改正、ICTの活用による学習環境の変容、地域力強化のための学校の在り方などにより基準を設けることが難しいことから、適正規模の基準は設けないものといたします。(2)の学校を核とした地域力強化という観点から、旧市町村をまたいだ学校統合は行いません。(3)統合の際につきましては、教育委員会が主導で進めるのではなく、当該校の児童生徒、保護者、保育園こども園の保護者、地域住民の皆さんの声を十分に聞いた上で、丁寧に協議を行い判断いたします。(4)小規模特認校の新井南小学校の今後につきましてはですけれども、新井南小学校の特徴をさらに伸ばしたり、目指す子どもの姿を具現化するため、縦割りの異年齢のグループで学級編制をし、対話、遊び、学習、催しの四つの活動を基本に学校活動を行うイエナプラン教育の導入を目指します。

5ページ以降につきましては、複式学級とイエナプラン教育についての参考資料となっておりますので、後ほどごらんいただきたいと思います。以上で、妙高市立小中学校整備構想についての説明を終わらせていただきます。

○議長(関根正明) ただいまの件について何かございませんか。堀川義徳議員。

○堀川議員(堀川義徳) 2点ほど確認なんですけど、具体的なこれからのこの5年間の中で、妙高高原の南と北を対等統合によって新たな学校を目指すということで、具体的には学校を新しくつくるのか、それともどっちかの学校にするのか、これから多分地元に入って協議すると思うんでその辺ちょっともう少し詳しく伺いたい。

○議長(関根正明) 松橋こども教育課長。

○こども教育課長(松橋守) はい。こちらの学校統合につきましては、今後の協議になりますけれども、高原南小学校

あるいは北小学校のいずれかを使いたいというふうを考えております。

○議長（関根正明） 堀川義徳議員。

○堀川議員（堀川義徳） 過去にそういう統合してきたんで、本当にこう難しい問題というか、将来に遺恨を残すような、そういうことは過去にありましたんで、ぜひ地域の方の声を大事にしながら進めていただきたいんですが。先ほど説明の中で、新井北小学校以外は全部減っているということで、ほかの今の2校以外は、統合は適正な人数はつくらないということで、この5年間の中ではほかの学校の統合という話はないと思うんですが、一方でうまくいかないもので、新井北小学校だけ増えているということで、このままいくと全学年2クラスってことになるので、当然今の学校だと古い学校なんで、音楽室とか、パソコンのコンピューター室とかいろいろと外に出したんですけど、もうあれ以上ちょっとつけ足しも出来ないと思うんですが、何かつくとっても1年や半年では出来ないと思うので、その辺、クラスとかあと職員の部屋ですよね。私もよく行くんですけど、その辺どのようにお考えでしょうか。

○議長（関根正明） 松橋こども教育課長。

○こども教育課長（松橋守） はい。おっしゃるとおり新井北小学校につきましては出生数以外増える要因があるというふうに見込んでおります。現時点で、まず出生人数から見込んだ中では、令和8年度までのクラス編成につきましては、教室は足りる見込みとなっております。ただ、新たな宅地造成による、市内それから市外からの転出入の関係につきましては、なかなか不確定であるため見込みが難しい状態となっております。最初に申し上げました見込みの中で、現在使用できる普通教室は13教室あるんですけども、令和4年度以降の最大のクラス数の見込みにつきましては、通常学級で10クラスというふうに見込んでおります。ただ特別支援学級等も当然ございますので、さっき言った13に対しまして普通教室10ですので残り3教室がございますけれども、それが特別支援教室の関係でどうなるかっていうところは不確定な状況ですけども、ただ現状ではしばらく先についても、今時点ではまだ余裕があるような状態になっております。

○議長（関根正明） 堀川義徳議員。

○堀川議員（堀川義徳） 私もたまに地元なんで行くんですけど、非常に特別教室とか増えてくると職員さんといひますかね、働く方がふえると非常によその学校と比べて随分、教職員の部屋が非常に狭くてですね、子どもたちが狭いところでやるよりはいいんですけど、その辺も今後の推移を見て、後手にならないような対応策をお願いしたいと思います。

○議長（関根正明） 高田保則議員。

○高田議員（高田保則） この問題については先般、総文でコミュニティスクールの話の中で、関連で出てきたんですが、いわゆるコミュニティスクールの支援の学校、例えば南小学校、北小学校出ていますけども、その辺のコミュニティの考え方は、どんなふうになっていますか。

○議長（関根正明） 松橋こども教育課長。

○こども教育課長（松橋守） はい。基本的には、妙高高原の場合は大字ということで、幾つかの行政区がございますけれども、今、北小学校と南小学校それぞれ、その大字に基づいてある程度コミュニティスクール等も委員等選出した部分もありますし、あと学校のほうで選んだ中で、経験者ですとか、知識人という方から入っていただいている分もあるかと思っておりますけれども、基本的には、既存のコミュニティスクールの考え方を生かしながら、また学校が一つになれば、そちらについても当然統合するようになりますし、その中で新しい組織をつくっていくことになるかと思っております。ただ妙高高原地域につきましては、以前から、両小学校、それから中学校がMK連という組織をつくっておりますので、その中でもともと情報の共有ですとか、学習環境のすり合わせですとか、いろいろ協議している部

分もありますので、ある程度そのすり合わせについては、円滑にできるのではないかとこのように考えております。

○議長（関根正明） 高田保則議員。

○高田議員（高田保則） 私数年前に、小中一貫校の提案をした経過もあるんですが、現状を見ますとね、令和8年で小学校の人数がこれだけになる。逆に中学校の人数もこれだけになるわけですよ。ですから、小中一貫校で施設が足りないっていう、前回、そういう答弁だったんですけども、それはもう全然、かえって余るぐらいの施設の広さだと思うんですが、今区域を超えてやらないっていう前提ならば、私は妙高、妙高高原小中一貫校でも十分やっていけるし、教育上もそのほうがいいんじゃないかというふうに考えるわけですが、いかがですか。

○議長（関根正明） 松橋こども教育課長。

○こども教育課長（松橋守） はい。小中一貫校という部分で、まず施設の面なんですけれども、普通教室として使用できる教室数が、基本的にちょっと足りない状態になります、小学校から来る分も合わせますと。現在普通教室として使用できる教室数は8教室あるんですけども、例えば小中一貫校の場合ですと、小学校が6クラス、それから中学校3クラスになりますので9教室が必要になるんですけども、それは今のよう状況では足りないということにもなりますし、あと特別支援学級ということもございまして、まず教室数が足りないというような状況になっております。それ以外施設の面としましては、例えば手洗い場ですとか、特別教室のテーブルですとか、机とかいすとかにつきましては中学生の当然仕様になっておりますので、そういう部分につきましては、また新たなものを当然入れるようになるかと思っておりますし、また、例えば校舎全体がですね中学生に合わせてのつくりになっておりますので、小学校低学年1年生から仮に使用することになれば、その辺も踏まえた中で、校舎の中の改修もかなり手をつけなければいけないというふうに考えております。現時点では、さっき言った教室数はそもそも足りないというところで、例えば増築すれば別ですけども、今の時点ではまずそこまでは考えておらないというような状況です。

○議長（関根正明） 高田保則議員。

○高田議員（高田保則） ここにもありますけど、地域住民の声を十分に斟酌するっていうことがありますけど、私は学校中心のコミュニティ社会っていうのは非常に強いものがありますけども、学校がなくなるってことは地域社会の崩壊にもつながりかねないという、私は危機感を持っております。そういうことで、学校という教育現場を守るっていうのが行政の最大の課題だと思うんですね。その辺を十分認識した上で対応をお願いしたいと思います。以上です。

○議長（関根正明） よろしいでしょうか。

〔「よし」と呼ぶ者あり。〕

○議長（関根正明） 以上で上、全員協議会を閉会いたします。長時間にわたり御苦労さまでした。

閉会 午後1時11分

妙高市議会議長	
---------	--